Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 「フォンス サピエンティエ」

No.23
2023.3

Contents

・館長あいさつ
・教員の近刊単・共著の紹介
・推薦図書
・より良い図書館をつくるための懇談会
・編集後記

館長あいさつ

佐々木 裕子

2022年4月1日、矢口学長より図書館長を拝命した。その役割を全うすべく、図書館はそもそも何をする場所として存在してきたのか、歴史を紐解いてみることにした。

【古代は学術の殿堂】

古代ヘレニズム時代の図書館は、付近を訪れる旅人が本を持っていると、それを没収して写本を作成するという資料収集方針を持っていたようである。さらに薬草園が併設されており、今日の植物園のような遺伝資源の収集も行われていた。今でいう公文書館、博物館に相当する機能をあわせ持っており、最高の「学術の殿堂」となっていた。

【中世では知恵の館】

イスラム世界では、バグダードに「知恵の館」を設立した。知恵の館では、写本とともにペルシャ語やギリシャ語の文献の翻訳も行われた。また、コルドバには7つの図書館が建設され、40万巻の蔵書があった。

また、中世ヨーロッパでは、修道院に図書館・図書室が併設されていることが多かった。この頃の主要な紙である羊皮紙はとても高価であり、写本1冊で家が買えるほど貴重なものであったため、本は鎖で本棚につながれていた。学者や貴族以外の者は利用できなかったり、利用が有料であったりした時代が長い。

15世紀の活版印刷の発明で、本が大量生産できるようになって初めて「誰でも無料で」の原則が広まり、民衆の間に「会員制」の組合図書館、都市図書館が開設された。

【20世紀】

20世紀になると、図書館は、学校、企業、医療施設などによって「情報や知識の共有手段」として位置付けられるようになった。近代以前の日本における図書館的な施設としては図書寮や芸亭、金沢文庫、足利学校などが有名である。青柳文庫は仙台藩藩校・養賢堂から分離独立した仙台医学館構内に設置され、身分に関係なく閲覧・貸出がなされたという。

さて、「学術の殿堂」「知恵の館」「修道院の図書室」「会員制」「知識の共有」などなど、本学の図書館は、どのような形で卒業生に語り継がれていくのだろうか、楽しみである。

教員の近刊単・共著の紹介

『教師教育におけるスタンダード政策の再検討 ―社会的公正、多様性、自主性の視点から』 牛渡 淳・牛渡 亮 著 東信堂

名誉教授 牛渡 淳

近年、教師教育において、教師の質確保と専門職性向上を狙いとして、教員スタンダードが導入されている。他方、こうした政策は、法的な強制力と画一性を持つが故に、教師教育の多様性や教師・大学等の自主性が失わせる可能性も指摘されている。教師教育のスタンダード政策において、「質や専門職性」と「多様性や自主性」をどのように両立させることがでるか、大きな課題となっている。本書は、スタンダード政策のこうした二つの側面に関して、社会学者の牛渡亮と二人で、過去10年間に学会誌、紀要に書いた論文8点と書き下ろし2点を集めた共著の論文集である。内容としては、新自由主義的教育改革への対抗軸として、教職の専門職化と社会的公正の実現を目指した米国の教員スタンダード政策の実態を明らかにすると同時に、わが国における教師教育のスタンダード政策（コアカリ、育成指標等）が抱える課題を「多様性と自主性」「教育学と教養教育」という視点から明らかにした。

教員の近刊単・共著の紹介

『宗教と認知行動的セルフモニタリング ―青年期の適応を通じて―』 山﨑 洋史 著　学文社

心理福祉学科　教授　**山﨑 洋史**

本書は、臨床心理学の実践・研究に長年従事してきた筆者が、第三世代認知行動療法カウンセリングを適用する際に、日本文化における宗教観を踏まえることが必須であるという立場から、実証的エビデンスを得るために調査研究・臨床事例を通して、宗教的視点を組み込む意義を探索実証的に証明し、新たな提言を行ったものである。

臨床心理学の理論はほぼ欧米からの輸入であり、それを日本に適用する場合にかなりのプロセス・時間がかかることが常である。その理由の一つとして、日本において心理的支援を目指す場合に生じる欧米との人間観や文化的背景の違いであり、認知行動療法に際しても、日本人の宗教観とくに宗教についてのゆるやかな信念についての理解が必要である。

第三世代の認知行動療法がキリスト教文化を基盤とする国々において仏教的瞑想を導入したことで始まったことに注目し、日本社会は仏教文化になじんでいることから、この理論をそのまま導入することには現場で戸惑いがあり、それゆえ、日本人の宗教観を踏まえた上の認知行動療法が求められるとして議論を展開している。

臨床心理学と宗教研究、特に宗教社会学的な研究の成果を相互参照し、青年の心理に即して第三世代の認知行動療法を宗教社会学における議論と連接させようとした試みは高く評価され、今後の展開のエビデンスとなる心理学における学術図書である。

なお、本書は、文部科学省科学研究費心理学学術図書助成による（JSPS 科研費 JP21HP5163）単著出版である。

余談であるが、文部科学省科学研究費による公費出版は、仙台白百合女子大の創立以来、本書が初めてであり、本学第１号となる記念すべき学術図書である。

『アンジェラスの鐘――希望への招き』 加藤 美紀 著　オリエンス宗教研究所

グローバル・スタディーズ学科　教授　**加藤 美紀**

本書は、キリスト教月刊誌『福音宣教』に２年間連載されたエッセイを単行本化したものです。聖書、フランクル、ヒルティ、カミュなどをヒントに希望への道筋を探ります。名画や写真を掲載し、口語体で綴り、読みやすさを心がけました。将棋棋士・加藤一二三との親娘対談も収録。

本書では、私自身の人生の挫折と立ち直りの過程で光となった聖書の言葉、不条理の極みともいえるユダヤ人強制収容所から奇跡的に生還したフランクルの生涯、〈生きる意味〉の思想、夢分析の事例、三大幸福論の一つ、『幸福論』で有名なヒルティのキリスト教信仰に基づく人生の知恵、コロナ禍で再び注目を集める『ペスト』に学ぶ不条理の乗り越え方、有神論と無神論の接点、自己肯定感と教育、聖書思想のキーワド「祝福」「復活」「召命」「祈り」などについて取り上げました。この中で、愛読書からの引用とともに、家族・友人・恩師・学生との関わりなど、出会いと体験を通して人生を導く、神様の不思議な配慮を感じさせるエピソードをご紹介しました。

推薦図書

『ヒロのちつじょ』 佐藤 美沙代 著　太郎次郎社エディタス

人間発達学科　講師　**松好 伸一**

これは、いわゆる子ども向けの絵本ではありません。著者が美術大学に在籍していた当時、卒業制作として作ったものがもとになっている絵本です。ダウン症候群である兄の日常を、家族の立場で愛情たっぷりに描いています。

「愛情たっぷり」ですが、「変な」こだわりをいじったり、面白がっていたりします。成人したダウン症候群の人と関わったことがある人なら「あー、そうそう」「あるある」とにやけてしまうような姿が描かれています。

著書である佐藤さんはインタビューの中で「10代のころ、独特の行動をする兄が受け入れられなかった。そんな自分に対する葛藤もあったが、１人暮らしをきっかけに、「家族と私はまったく違う存在。兄が兄であるように、自分もありのままでいい」と思えるようになった。今は「無理していない兄のあり方に憧れる」とおっしゃっています。

ダウン症候群に限らず、様々な障害理解の入り口として、手に取っていただきたい１冊です。

『心理学をまじめに考える方法 真実を見抜く批判的思考』 キース・E・スタノビッチ 著／金坂 弥起 監訳　誠信書房

心理福祉学科　教授　**山﨑 洋史**

一般に「心理学」を学ぶと、「人の心がわかる」「人の心動きが読める」「人の心を癒せる」、すなわち「人間の心と行動の理解が統合されていく」イメージが一般的に強く持たれている。しかし、実際、学修がすすむにつれ、より分類化・細分化・拡散化され、実際の「人間理解の深化・統合」には、ほど遠いことに気づかされていくのが実際である。これほど一般的イメージと実際の乖離が大きい学問は、希である。そのため初学者は、そのギャップによるストレスを乗り越えて学ぶことが必要となる。

本書は、このような「間違って広がったイメージ」に正対し、イメージと実際のギャップを乗り越え、心理学における学術的・科学的営みの重要性を力強く説明した教書である。その文脈から心理学の本質を明示している教育的価値は高く、近年の「心理学の科学的副読本」として最適なものの一つであるといえよう。

内容として、前半は、科学的アプローチ、心理

学的実験計画や確率論を説明。第１章「心理学は元気です」から続き第２章「反証可能性」、第３章「操作主義と本質主義」、第４章「支持証言と事例研究でのエビデンス」において、心理学は若い学問であること、および現在に至るまでの意味のある蓄積があることを丁寧に論じている。そこから第５章「相関関係と因果関係」の章で、事象に基づく推論法として心理学的手法へと繋げている。この構成は流れとして腑に落ちていく。

後半は、専門的な手法について説明し、心理学に関する「間違ったイメージ」がなぜ広がるのかについての説明を行っている。例えば７章は、「人為性」批判と、無作為割り当てと無作為抽出の違いについて、多くの研究例を参照しつつ「心理学実験は現実とは違うという事実が短所でなく、むしろ長所なのです。」と結ぶ。また第９章の「複合原因の問題」は、単一の究極原因を求める考え方の誤りを十分に示している。第 10 章や 11 章は確率的思考の紹介である。現実世界は、多入力・単出力ではなく、多入力・多出力のシステムであり、確率的思考として、多くのパスについて確率的分布を考える必要性を強調している。特に第11章「心理学における偶然の役割」では「心理学的予測が個人レベルで可能だという誤った考え方は、時として、臨床のトレーニングが個々の事例を予測するための『直観』力をもたらす、と誤解する臨床心理学者自身によって作り上げられることがよくあります。」といった記載もあり、また第 12 章は、「『X をすれば Y になりますよ』といったレシピ的知識で世に出ようとする人材が、心理学の外ではなく内側にもいる」と指摘し、本書の和訳者が臨床心理学者であることに，自己批判をどのようにとらえたのか驚く側面さえある。

書評の結論として、拙者の経験から、人間理解のための曖昧模糊とした概念は、まず心理学領域において検討され、そこから得られたトピックスは経験的なものから実証的なものへ明らかになるにつれ、他の学問領域、すなわち、医療、福祉、教育領域へ移行していく「つなぎである存在」としての「心理学の位置づけ」を、正に自問自答したのが本書であると言えよう。

「心理学の科学的副読本」として最適なものの一つとして推薦したい。

『オトナ女子のすてきな語彙力帳』 吉井 奈々 著　ダイヤモンド社

健康栄養学科　教授　**佐々木 裕子**

テレビでおなじみの私が尊敬しているコミュニケーションの先生「吉井奈々」さんが、本を出版しました。「いつもの言葉があか抜ける オトナ女子のすてきな語彙力帳」です。具体的には、挨拶の言葉や気持ちを伝える言葉、感謝の言葉、打ち解ける言葉、あいづち・クッション言葉、ほめる言葉、励ます言葉、お願いの言葉、断るときの言葉、おわびの言葉等具体的に示されています。

「正しい言葉遣い、できているかな？」「私、変なこと言ってない？」と心配になる学生さんの話を聞くと、SNS がコミュニケーションの中心となっている世代には、言葉を正しく使うことは大変な時代になってきたように感じます。「いつもお世話になっております。」これは感じのいい挨拶ではありません。「いつも」の代わりに、相手との具体的なエピソードを交えるといいと書いてあります。この本を読むと自然に相手も自分の嬉しくなる言葉が身に付き、特別な事を言わなくても、自然に伝わる語彙力がアップできる本です。

『宗教と日本人 葬式仏教からスピリチュアル文化まで』 岡本 亮輔 著　中公新書

グローバル・スタディーズ学科　教授　**小形 美樹**

初詣には神社にお参りにいっておみくじを引き、クリスマスにはツリーを飾ってプレゼントを交換し、お葬式ではお寺で僧侶に読経をあげてもらう。そういえば、うちには神棚と仏壇の両方があったなぁ…という方は、東北で唯一のカトリック女子大学に通っている皆さんの中にも多いと思います。

この本の著者は、日本では信仰を持たない人が大半を占めるのに、仏教や神道、キリスト教の行事とは縁が深いことに着目し、日本人と宗教との関わり方について、解き明かしています。お葬式の意味の変化、パワースポットとして観光資源化した神社、スピリチュアル文化の隆盛など、身近な事例がたくさん取り上げられており、現代の日本人の宗教の捉え方の面白さや意外性に気づかされます。

キリスト教主義の教育機関や遠藤周作などのカトリック作家についても取り上げており、仙台白百合女子大学で学んでいる皆さんに、是非読んでいただきたい一冊です。

『いのちと霊性 ―キリスト教講演集―』 仙台白百合女子大学カトリック研究所 編　教友社

グローバル・スタディーズ学科　教授　**加藤 美紀**

本書は、本学カトリック研究所が図書・地域貢献研究センターの協力を得て開催した講演会の中から、「生きる意味」「生と死」「限界状況と希望」「現代世界に息づくキリスト教霊性」に関する珠玉の講演録を選び、収録いたしました。14 編の各著者の専門分野は多岐にわたり、死生学・医学・哲学・神学・宗教学・文学・教育学・人間学・経済学・地球環境学が交差する多彩な内容となっております。

第Ⅰ部　生と死を見つめて：いのちへのまなざし▷幸田和生／「生命」へのアプローチと、「いのち」へのアプローチ▷佐竹正延／最期まで自分らしく生きるために▷清水哲郎／現代人の死生観とスピリチュアリティ▷島薗進

第Ⅱ部　限界状況に生きる人間：大災害と人間の生きる意味▷岩田靖夫／限界づけられた生を受け継ぐ▷竹之内裕文／『夜と霧』に学ぶ〈生きる意味〉▷加藤美紀／フクシマの痛みの中で▷川上直哉／なぜ神は助けないのか▷西平直

第Ⅲ部　現代世界に息づくキリスト教霊性：心に到来する他者▷田中智志／シャルトル大聖堂のラビリンス▷リチャード・ガードナー／途上国の開発と環境▷ジョン・ジョセフ・プテンカラム／わが国における大学改革とカトリック大学の役割▷髙祖敏明／現代の忘れもの▷渡辺和子

より良い図書館をつくるための懇談会

魅力ある図書館にするため、学生の自由闊達な意見を伺う場として、今回で４回目となる「より良い図書館をつくるための懇談会」を開催しました。

今回も各学科の学生にお集まりいただき、沢山の意見を賜りました。

日　時：2023年1月11日（水）12：20～12：50
場　所：321室（３号館２階）
参加者：学生７名、教職員５名　計12名

●参加者名簿（敬称略）

学　生	教職員
人間発達学科 坂本　凜（２年）　佐々木玲菜（２年） 心理福祉学科 阿由葉いぶき（１年）　難波　結（１年） 健康栄養学科 新田　華子（１年）　星　晴菜（１年） グローバル・スタディーズ学科 辻田　綾弥（２年）	佐々木裕子（図書館長、健康栄養学科教授） 志水田鶴子（図書委員、心理福祉学科准教授） 三浦　和夫（図書委員、心理福祉学科講師） 石岡　宏美（事務局次長、図書館事務長） 浅岡　京子（図書館職員）

●学生からの意見

（良い点）

意　見	
空きコマ等に自習や参考文献を探せる。	他学科の本も借りることができる。
様々な分野の蔵書があり、設備が整っている。	本を借りる際、返却日を書いた紙を貰えるので忘れずに済む。
くつろげるソファーがあり、ゆっくり読める。	図書館入口に掲示してある様々なイベント案内。
１階の多目的スペースは飲食もできてとても良い。より効率的に時間を使うことができる。	他学科の専門書を閲覧できる。
様々なDVDを、友人と一緒に自由に観ることができる。	快適である。広い机は日が当たり、日差しが眩しい時は仕切られた一人机を利用している。

（改善点）

意　見	回　答
人目を気にせず過ごせる、仕切られた一人の空間が欲しい。人が通ると集中力が切れる。	３階のレイアウトを変更しました。
一人用の仕切りスペースを増やしてほしい。	
一人で集中するスペースと、大人数で過ごすスペースを分けたほうがよい。	
有効に使える本には、ポップを付ける等目立つように。	お薦め図書にポップを付けました。
新刊の量を増やしてほしい。	予算の許す範囲内で対応します。

（現状維持）

意　見	回　答
ホームページの論文検索で、見れるものと見れないものがある。	有料の論文や、データ未公開の論文は表示できません。
一人で集中するスペースと、大人数で過ごすスペースを分けたほうがよい。	スペースを分けて設置しています。
小説は作家順に並べてほしい	蔵書検索の都合上、タイトル順に並べています。
美術館等の無料チケットを他館にも置いてほしい。	入手枚数が少ないため、他館設置は難しいです。
キャンパスメンバーズの存在を知らない学生が多い。	図書館ツアーやガイドブック、掲示やホームページで案内しています。
２号館２階の入口は、退出はできないのか？	セキュリティ上、一方通行にしています。

（継続審議）

意　見	回　答
２階と３階のトイレを洋式にしてほしい。	2023年２月の教授会上申予定。
テーマを定めたコーナーの設置。	次年度の図書委員に申し送ります。
懇談会の参加対象を広げ、年１回開催ではなく複数回行った方が、より良い意見が出ると思われる。	

編集後記

今回で４回目の開催となる「より良い図書館をつくるための懇談会」では、施設の老朽化に関する改善要望が多かった。

2021年度は、通路や隙間に野積みされていたダンボールや放置備品の撤去と、ソファー椅子増設置等のレイアウト変更を行った。2022年度は、前年度の改善作業を継続しながら、書架内の書籍整理と新刊入替作業を中心に行った。

２年間の改善作業が功を奏し、図書館の基本機能に対する「改善要望」は大分少なくなった印象である。

今後も改善できる点は改善し、「居心地の良い空間」づくりを目標に、図書館運営を行いたい。

（図書館事務長　石岡 宏美）

障がいのある方へ　障がいを持つ方の図書館利用に関する質問や案内、サポート等に対応します。
希望する場合は図書館スタッフにお申し出下さい。図書館は、バリアフリー設計となっております。

図書館ホームページ　https://sendai-shirayuri.ac.jp/campuslife/sslibrary/

Fons Sapientiae 仙台白百合女子大学図書館報　No23　2023年４月１日発行　仙台白百合女子大学 図書・地域貢献研究委員会　〒981-3107 仙台市泉区本田町 6-1
tel 022-374-5090　fax 022-374-4577　e-mail: library@sendai-shirayuri.ac.jp
図書・地域貢献研究委員会：佐々木裕子　松好伸一　志水田鶴子　三浦和夫　熊谷健二　図書館職員：石岡宏美　谷藤大介　須藤清美　浅岡京子　菅原陽子　浜口美和